

書 評

『はじめて学ぶ少額短期保険』

ニッセイ基礎研究所 松澤 登 著

少額短期保険とは、字

のこま、補償(保障)の金額において少額の、かつ、補償(保障)期間が短期となる保険である。本書の第1章の冒頭にその沿革が解説され、

監督規制の合間(保険業

の不定性要件の下)に、当時その事業について保険監督を受けることがなかった根拠法のない共済に対し、以後、保険監督を行っていく目的の下に創設された制度であ



の兼営禁止がなく、保険料の設定・変更も容易に認められるなど、ビジネスの自由度が高いことも相まって、右肩上がりに事業者数(2012年71事業者→22年120事業者)を増やし、保有契約件数も右肩上がりに増加し(12年504万件→22

年1087万件)、マー

ケットが拡大中である。本書の第1章では、「少額短期保険の基礎、沿革とマーケット」と題

る過程について説明し、

また、業者数・保険料収入ともに首位となる家財保険のマーケット状況を筆頭に、生命・医療保

他の保険と4分野に分

けたそれぞれのマーケットの状況を、グラフを用いてわかりやすく明らかにする。

本書の第2章「少額短

期保険業に対する法規制」では、同事業の保険業法上の規制をある程度網羅的に扱う中、この専門的内容の記述が読者に理解できるよう、適宜、

このように少額短期保

険業者は、根拠法のない共済の時代から、市場において、保険会社が補償を提供してこなかった領域のニッチな商品を展開することも多く、われわれ消費者に新しい補償(保険)の選択肢を提供する。借家人の家財保

地震保険など、日々新

い保険商品が次々に開発されている。本書の第3章「少額短期保険業者の主な商品内容」では、このような商品の内容(仕組み)を、賃貸住宅の家財保険、生命保険、医療保険、ペット保険、費用

ために重要視されるイン

シュアテックを扱い、P2Pやエンベッド保険の販売、複数のペット関連少額短期保険業者の共同システムであるAI保険金査定サービスなど、現時点で少額短期保険業者に実現されているインシュアテックを紹介し、今後のさらなるICT進展に対する提言を付して本書と本書を締めくくっている。

マーケット拡大中の近況をわかりやすく解説

[評者] 土岐 孝宏 (中京大学法学部教授)

し、04年当時の金融審議会における根拠法のない共済に対する規制の在り方にかかる議論にさかのぼって同事業が規制され

制」では、同事業の保険業法上の規制をある程度網羅的に扱う中、この専門的内容の記述が読者に理解できるよう、適宜、

化事象を受けた23年の金融庁の監督指針の改定と

フリーランス保険(医療保険)、がん経験者向け入院保険、妊産婦向け医療保険、熱中症・インフルエンザ保険、プロ選手

とところで、保険会社ま

たは保険持株会社は、こ

る。本書はこの1冊において、少額短期保険業の全容をマーケットや保険業界の近況とともに明らかにするものであり、「なるべくわかりやすく、かつ端的に情報を伝える」という本書の目的が十二分に果たされた書であり、少額短期保険をはじめ学ぶ、金融実務家、学生に最適な入門書である。

フリーランス保険(医療

(A5判/258頁、保険毎日新聞社刊、24年2月26日発行、税込2970円)

第5章では、「少額短期保険業者の現状と展望—ICT進展を中心に」と題し、保険業全体の課題である、特に少額短期保険業というビジネスにとっては今後の成長の